

七夕集会

七夕集会を7月3日に行いました。めあては、「七夕の由来を知り、日本の伝統行事に親しむ」ことや、「歌やお話を通して、関連する語句や言葉に親しみ、語彙を広げる」ことです。



今回の七夕集会は、コロナ禍にあって、AVルームの使用ができませんでした。そのため、児童生徒は教室で七夕に関する動画を見たり、クイズに答えたり、お話を聞いたりして、学習を深めました。また、学級によっては、短冊に願いを書いて笹に飾り付けをしたり、低学年では、笹に付ける飾りをつくったりと楽しい時間を過ごしていました。

残念だったことは、予定していたPA役員さんによる読み聞かせが中止となったことです。その内容は「織姫と彦星」の話で、毎年行っているのですが、児童生徒の中には知らないという子もいました。この機会に是非とも「七夕の由来に関する話」を家庭でもして、少しでも日本の伝統文化に触れることで、日本に興味を持てると良いです。

「七夕の由来」

「七月七日は七夕祭り。天の川の兩岸にある牽牛星と織女星が年に一度会えるという伝説から生まれたといわれる星祭り。実際には、様々な伝説や祭りが合わさってきたようです。

中国から伝わった牽牛（けんぎゅう）と織女（しょくじょ）の伝説

天界に住む牽牛と織女は恋に陥り、仕事の牛飼いや機織の仕事をやめてしまった。それが天帝の怒りに触れ、二人は天の川をはさんだ兩岸にへだてられてしまった。

二人は年に一度、七月七日の夕べのみ、かささぎが架けた橋を渡って出会うことが許された。そこから七夕と書くようになったといわれています。それが奈良時代に日本に伝わり、日本古来の機織女（たなばたつめ）の行事と結びついたのが七夕。機織女とは、村で選ばれた女性が機（はた）屋にこもり、来臨する神のために衣服を織ったという風習。



出典:池田書店 冠婚葬祭百科 松田千恵子監修より(一部変更)

日本では夏の夜、東の空を見上げると、夏の大三角と呼ばれる3つの1等星を見付けることができます。それは、こと座のベガ(織姫星おりひめ)、わし座のアルタイル(彦星ひこぼし)、はくちょう座のデネブ(カササギ)を指します。見つけることができますか？

シンガポールでもこの夏の大三角の星々を見ることができるよう。この図は、2021/7/24の午後10時頃、方角は北東やや低い位置だそうです。この辺りの一番明るく見えること座のベガを見つ



星座観察は保護者同伴で安全を確保して行ってください。資料：「hoshifuru.jp/sky/Singapore」

七夕集会での授業風景



文科省からのお知らせ

外務省の海外安全ホームページや各在外公館ホームページ等では、連携する5つのNPO団体を紹介しています。これらのNPO団体では、海外に在留する児童生徒が抱える問題(児童虐待を含む。)についても相談を受け付けており、チャットやSNS 等を通じ、NPO団体に直接相談することが可能です。

○孤独・孤立及びそれに付随する問題でお悩みの方へ(外務省ホームページ)

<https://www.anzen.mofa.go.jp/life/info20210707.html>

NPO 団体

特定非営利活動法人あなたのいばしょ

特定非営利活動法人 自殺対策支援センターライフリンク

特定非営利活動法人 チャイルドライン支援センター

特定非営利活動法人 東京メンタルヘルス・スクエア

特定非営利活動法人 BOND プロジェクト

